

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月6日

【四半期会計期間】 第95期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 K O A 株式会社

【英訳名】 KOA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 花形 忠男

【本店の所在の場所】 長野県伊那市荒井3672番地
(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)
長野県上伊那郡箕輪町大字中箕輪14016番地

【電話番号】 (0265) 70-7171 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 経営管理イニシアティブ担当 向山 浩正

【最寄りの連絡場所】 K O A 株式会社東京支店
(東京都府中市緑町2丁目17番地2)

【電話番号】 (042) 336-5300 (代表)

【事務連絡者氏名】 東京支店 取締役 小嶋 敏博

【縦覧に供する場所】 K O A 株式会社東京支店
(東京都府中市緑町2丁目17番地2)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄3丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第94期 第3四半期 連結累計期間	第95期 第3四半期 連結累計期間	第94期
会計期間		自2021年4月1日 至2021年12月31日	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高	(百万円)	47,726	57,310	64,955
経常利益	(百万円)	5,156	8,877	6,859
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	(百万円)	3,762	6,038	4,771
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,494	7,312	6,358
純資産額	(百万円)	65,161	72,782	67,103
総資産額	(百万円)	89,624	109,883	94,989
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	101.81	162.92	129.08
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	72.7	66.2	70.6

回次		第94期 第3四半期 連結会計期間	第95期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自2021年10月1日 至2021年12月31日	自2022年10月1日 至2022年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	31.31	41.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）の世界経済は、資源価格高騰による物価上昇や金利上昇等により景気回復の減速がみられ厳しい環境となりました。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、EUが2035年にガソリン車を販売禁止とする等、環境規制によるEV等環境対応車への全面移行が早まる可能性があり、中長期的には自動車向け市場の拡大が見込まれます。当期においては、半導体不足による生産制約や中国のロックダウンなどの影響はありながらも、全体として高水準の需要が継続しました。

このような環境のもと、当社グループは2030ビジョンの実現、2024中期経営計画の目標達成に向けて、EVなどのモビリティ市場・産業機器市場の成長を支えるための供給体制の構築、KPS活動の『しんか』、イノベーション・マネジメントシステムの導入、再生可能エネルギーの導入と電力使用量の削減、未来を創造する人づくりやガバナンスの新たな取り組み等の重点施策に注力しております。

販売面におきましては、中国・米国を中心に自動車向けが増加したことや為替の円安影響等により当第3四半期連結累計期間の売上高は57,310百万円（前年同期比9,583百万円増、20.1%増）となりました。

利益面におきましては、売上の増加や為替の円安影響等により営業利益は8,679百万円（前年同期比4,081百万円増、88.8%増）、経常利益は8,877百万円（前年同期比3,721百万円増、72.2%増）、また、環境対策引当金繰入額490百万円および操業休止関連費用130百万円を特別損失に計上したこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,038百万円（前年同期比2,276百万円増、60.5%増）となりました。

セグメントの業績は、日本においては売上高47,464百万円（前年同期比7,247百万円増）、セグメント利益6,492百万円（前年同期比3,804百万円増）、アジアにおいては売上高30,550百万円（前年同期比6,137百万円増）、セグメント利益1,435百万円（前年同期比334百万円増）、アメリカにおいては売上高9,850百万円（前年同期比2,288百万円増）、セグメント利益424百万円（前年同期比20百万円減）、ヨーロッパにおいては売上高8,137百万円（前年同期比1,659百万円増）、セグメント利益523百万円（前年同期比71百万円減）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は109,883百万円となり、前連結会計年度末に比べ、14,894百万円増加いたしました。主な要因としましては、有形固定資産等の増加によるものであります。また、負債につきましては、前連結会計年度末に比べ9,215百万円増加いたしました。主な要因としましては、長期借入金等の増加によるものであります。以上の結果、自己資本比率は66.2%となりました。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 株式会社の支配に関する基本方針について

当第3四半期連結累計期間において、重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,227百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年12月31日）の世界経済は、資源価格高騰による物価上昇や金利上昇等により景気回復の減速がみられ厳しい環境となりました。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、EUが2035年にガソリン車を販売禁止とする等、環境規制によるEV等環境対応車への全面移行が早まる可能性があり、中長期的には自動車向け市場の拡大が見込まれます。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2023年2月6日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	40,479,724	40,479,724	東京証券取引所 プライム市場 名古屋証券取引所 プレミアム市場	単元株式数100株
計	40,479,724	40,479,724	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	40,479	-	6,033	-	11,261

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,404,400	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 37,049,700	370,497	同上
単元未満株式	普通株式 25,624	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	40,479,724	-	-
総株主の議決権	-	370,497	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,900株(議決権29個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式81株が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) K O A 株式会社	長野県伊那市荒井 3672番地	3,404,400	-	3,404,400	8.4
計	-	3,404,400	-	3,404,400	8.4

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,916	26,706
受取手形及び売掛金	15,979	16,559
電子記録債権	2,288	2,856
商品及び製品	4,081	4,986
仕掛品	4,299	5,064
原材料及び貯蔵品	2,433	3,602
前払費用	267	308
未収還付法人税等	10	64
その他	1,051	860
貸倒引当金	47	53
流動資産合計	53,280	60,954
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	27,628	28,495
減価償却累計額	14,801	15,574
減損損失累計額	6	7
建物及び構築物(純額)	12,819	12,913
機械装置及び運搬具	45,367	49,970
減価償却累計額	36,138	38,294
減損損失累計額	253	260
機械装置及び運搬具(純額)	8,974	11,414
工具、器具及び備品	3,383	3,813
減価償却累計額	2,681	2,929
減損損失累計額	0	0
工具、器具及び備品(純額)	702	884
その他	1,323	1,467
減価償却累計額	526	700
その他(純額)	796	766
土地	6,594	6,721
建設仮勘定	2,236	6,318
有形固定資産合計	32,124	39,019
無形固定資産	763	778
投資その他の資産		
投資有価証券	4,441	4,194
繰延税金資産	1,017	1,240
退職給付に係る資産	75	94
その他	3,316	3,632
貸倒引当金	29	31
投資その他の資産合計	8,820	9,131
固定資産合計	41,708	48,928
資産合計	94,989	109,883

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,820	6,774
電子記録債務	1,084	1,257
設備購入支払手形	7	193
短期借入金	3,338	273
未払金	3,087	2,466
未払法人税等	2,061	1,259
未払費用	1,939	1,941
賞与引当金	1,798	1,166
受注損失引当金	412	477
環境対策引当金	-	490
その他	903	1,415
流動負債合計	20,454	17,715
固定負債		
長期借入金	3,232	15,415
退職給付に係る負債	1,904	1,835
繰延税金負債	727	702
資産除去債務	36	39
その他	1,531	1,392
固定負債合計	7,431	19,385
負債合計	27,885	37,101
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,033	6,033
資本剰余金	9,191	9,211
利益剰余金	51,753	56,124
自己株式	2,395	2,381
株主資本合計	64,582	68,987
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,559	1,353
為替換算調整勘定	1,299	2,727
退職給付に係る調整累計額	338	286
その他の包括利益累計額合計	2,520	3,794
純資産合計	67,103	72,782
負債純資産合計	94,989	109,883

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	47,726	57,310
売上原価	33,852	37,167
売上総利益	13,873	20,142
販売費及び一般管理費		
販売手数料	513	669
荷造運搬費	500	458
給料及び手当	4,123	4,886
賞与引当金繰入額	338	395
その他	3,801	5,053
販売費及び一般管理費合計	9,275	11,463
営業利益	4,597	8,679
営業外収益		
受取利息	27	46
受取配当金	54	60
為替差益	57	-
材料作業屑処分益	205	224
持分法による投資利益	138	283
経営指導料	35	78
その他	164	146
営業外収益合計	681	839
営業外費用		
支払利息	35	57
為替差損	-	7
為替予約評価損	25	-
税額控除外源泉所得税	16	11
売上割引	21	30
シンジケートローン手数料	-	482
その他	24	51
営業外費用合計	123	641
経常利益	5,156	8,877
特別利益		
固定資産売却益	18	1
投資有価証券売却益	1	5
特別利益合計	20	6
特別損失		
固定資産処分損	6	23
固定資産売却損	-	9
減損損失	0	10
操業休止関連費用	115	130
環境対策引当金繰入額	-	490
その他	-	2
特別損失合計	121	665
税金等調整前四半期純利益	5,054	8,218
法人税等	1,295	2,179
四半期純利益	3,759	6,038
非支配株主に帰属する四半期純損失()	3	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,762	6,038

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,759	6,038
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	295	206
為替換算調整勘定	940	1,362
退職給付に係る調整額	42	52
持分法適用会社に対する持分相当額	47	64
その他の包括利益合計	735	1,273
四半期包括利益	4,494	7,312
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,497	7,312
非支配株主に係る四半期包括利益	3	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権

四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形及び電子記録債権が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形	- 百万円	28百万円
電子記録債権	- 百万円	36百万円

2 受取手形及び電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
受取手形割引高	- 百万円	5百万円
電子記録債権割引高	102	113

3 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
(株)やまとわ	30百万円	30百万円

(四半期連結損益計算書関係)

1 操業休止関連費用

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を背景とした現地政府当局の要請に基づき、中国工場の操業を一時休止し、操業休止期間中の固定費を特別損失として計上しております。

2 環境対策引当金繰入額

当社所有土地の建物建設工事に伴い、土壌汚染処理の実施に要する費用見込額490百万円を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	2,581百万円	2,923百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月19日 定時株主総会	普通株式	333	9.0	2021年3月31日	2021年6月21日	利益剰余金
2021年10月21日 取締役会	普通株式	592	16.0	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

- (注) 1. 2021年6月19日定時株主総会決議による配当金の総額には、ESOP信託が保有する当社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。
2. 2021年10月21日取締役会決議による配当金の総額には、ESOP信託が保有する当社の株式に対する配当金1百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月18日 定時株主総会	普通株式	741	20.0	2022年3月31日	2022年6月20日	利益剰余金
2022年10月25日 取締役会	普通株式	926	25.0	2022年9月30日	2022年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	17,977	15,724	7,547	6,476	47,726	-	47,726
外部顧客への売上高	17,977	15,724	7,547	6,476	47,726	-	47,726
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22,239	8,688	14	0	30,943	30,943	-
計	40,216	24,413	7,561	6,477	78,669	30,943	47,726
セグメント利益	2,688	1,100	444	595	4,829	231	4,597

(注)1. セグメント利益(営業利益)の調整額 231百万円にはセグメント間取引消去 161百万円、棚卸資産等の調整額 69百万円が含まれております。

2. 日本、アメリカ以外の各セグメントに属する主な国又は地域の内訳は次の通りであります。

アジア ... 台湾、シンガポール、中華人民共和国、香港

ヨーロッパ ... ドイツ

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額
	日本	アジア	アメリカ	ヨーロッパ	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	18,991	20,347	9,834	8,137	57,310	-	57,310
外部顧客への売上高	18,991	20,347	9,834	8,137	57,310	-	57,310
セグメント間の内部売上高 又は振替高	28,472	10,203	16	-	38,691	38,691	-
計	47,464	30,550	9,850	8,137	96,002	38,691	57,310
セグメント利益	6,492	1,435	424	523	8,875	196	8,679

(注)1. セグメント利益(営業利益)の調整額 196百万円にはセグメント間取引消去 184百万円、棚卸資産等の調整額 11百万円が含まれております。

2. 日本、アメリカ以外の各セグメントに属する主な国又は地域の内訳は次の通りであります。

アジア ... 台湾、シンガポール、中華人民共和国、香港

ヨーロッパ ... ドイツ

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益 (円)	101.81	162.92
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	3,762	6,038
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	3,762	6,038
普通株式の期中平均株式数 (千株)	36,954	37,066

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「従業員持株会信託口」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間99,180株、当第3四半期連結累計期間0株)。なお、2022年2月をもって当該信託は終了しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年10月25日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額 926百万円
- (2) 1株当たりの金額 25円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 2022年12月1日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し支払いました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月6日

K O A 株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石原 鉄也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山田 大介 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているK O A 株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、K O A 株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。